

# 品川で導入2年の「セカンドステップ」

# 相互の理解↓問題の解決↓怒りの扱い キレる前に「考える」

怒りを感じた時、「キレ」ずに感情をコントロールする方法を子どもたちに身につけさせようと、品川区教委が取り組み始めて今年で2年になる。採り入れたのは米国で考案されたプログラム「セカンドステップ」。「けんかはため」という「しつけ」ではなく、子どもたち自身が問題解決に向けて考えるコミュニケーション力の訓練だ。レッスンをのぞいてみた。



「怒りを感じた時、顔や体はどうなる？」との問いに、みんなで怒りのポーズ＝品川区西五反田4丁目第四日野小学校で

## 行動想定し段階的に訓練

セカンドステップは約20年前、米国で開発されて現在は世界17カ国で使われている。言葉によるコミュニケーションを重視し、子どもたちに人間関係を円滑にする「ソーシャルスキル」を身につけさせ、暴力の加害者にならないことを目的としている。日本では01年、普及や実践者を養成する「NPO法人日本子どものための委員会」

## 社会性を身につけ関係円滑化

### 「セカンドステップ」

10年度までに品川の全小学校導入  
（本部・世田谷区 <http://www.cfc-j.org>）が発 要性を説く。山形大の宮崎昭教授（臨床心理）は「プログラムを受講後、子どもの攻撃性が減少し、科学的データも得ており、各地域に合った方法で採り入れて欲しい」と話す。



セカンドステップは3章で構成されている。第1章は相手の気持ちを慮（豊吹雪）

いやり、自分の気持ちも表現する「相互の理解」。第2章は問題の対応策を複数出して、最良だと思えるものを試す「問題の解決」。最後の章は、怒りを自覚してどう対処したらよいかを学ぶ「怒りの扱い」だ。

昨年度からセカンドステップを導入した品川区立第四日野小学校（矢渡哲郎校長）。18日、2年1組で「怒り」について学ぶレッスンがあった。第3章の最初の授業（橋本先生30）は子どもたちに、怒った時にはどんな身体反応が出るか、聞いた。

「怒鳴る」「暴れる」「物を投げつけたくなる」「隅っくで独りになる」「泣く」……。

すると橋本先生はボードを取り出した。そこには、こう書かれている。

「問題解決のステップ／安全かな？／気持ちは？／フェアかな？／うまくいきそう？」

先生はみんなが挙げた「反応」に、この項目を当てはめていった。

「怒鳴る」は安全か？「うん、まあ安全」「気持ちは？」「怒鳴られたら気持ちよくな」「フェアかな？」

橋本先生は昨夏、セカンドステップの研修を受けた。当初は、「こんな当たり前のことをやる必要があるのか」と思ったという。しかし今は、効果を実感している。

昨年12月、大きな模造紙1枚にみんながプログラムを書いている時のことだ。ある子が「込んでいる」できないからやめる」と言ったら、別の子が「一人ずつやったからできるから一緒にやろう」と呼びかけていた。

2学期中に「問題の解決」の章で取り上げた、「一つの物をみんなで使うには？」のレッスンで行ったロールプレートの再現だった。

同じ2年生を受け持つ新井恵先生（42）はこう考える。「順番を守るべきことはみんな分かっている。でも、順番にしよう」と口にするにはまだ別。そこを訓練する必要がある」

全国で初めて、教育委員会としてプログラムの採用を決めた品川区では現在24校で実施しており、10年度までに40ある全小学校で導入する予定だ。年間10時間で2年間かけて全プログラムを学ぶ。

区教委指導課では「価値観を教えるのではなく、具体的な場面での対応術を学ぶ授業。子どもたちには社会の一員として、他者と関係を結ぶ力を身につけて欲しい」と話している。